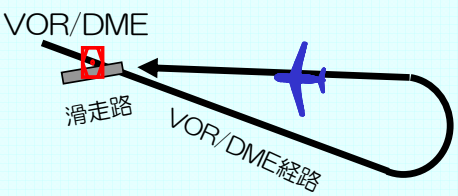
GPSの補助的利用によるRNAV（GPS）進入方式（非精密進入）（別添）

導入効果　・進入ルートの改善（オフセット角の改善　等）
・運航条件の改善（最低降下高度、着陸時の最低気象条件の改善）
・［上記の結果、］飛行時間短縮、使用燃料削減、CO_2削減

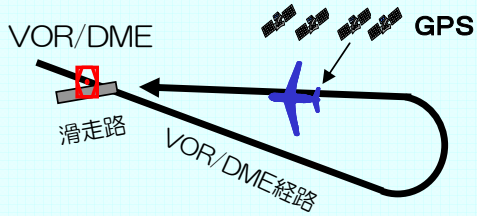
（1）現行

①既存施設による従来型の進入方式



既存施設（VOR/DME等）により設定された経路を計器進入。

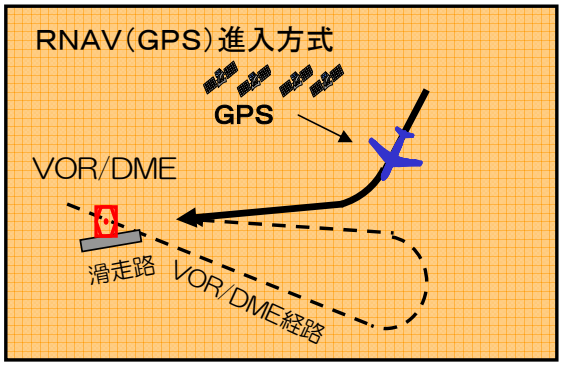
②GPSオーバーレイ進入方式



既存施設（VOR/DME等）により設定された*①の経路*を、GPSから得られる位置情報を参考にしつつ計器進入。

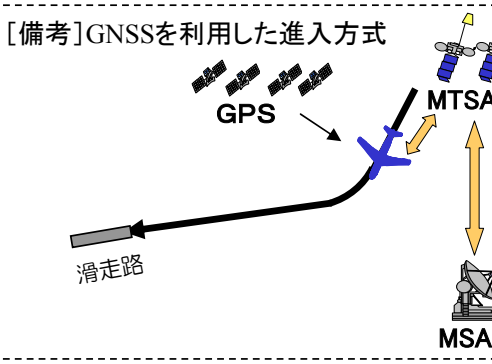
（2）新規

RNAV（GPS）進入方式



既存施設（VOR/DME等）により設定された経路とは*異なる経路*を、GPSから得られる位置情報を参考にしつつ計器進入。

［備考］GNSSを利用した進入方式



GPSとその補強システム（MSAS）から得られる位置情報等を利用して計器進入。

将来のGNSS運航方式に対応するもの。

参考

①GPS（Global Positioning System：全地球的測位システム）：アメリカ合衆国国防総省により運用される人工衛星を使用した測位システム。

②VOR/DME（VHF Omnidirectional Radio Range /Distance Measuring Equipment：超短波全方向式無線標識施設／距離情報提供装置）：超短波無線を使用して、航空機に方位と距離情報を提供する施設。これにより航空機は、自機の正確な位置が把握できるため、航空路等のルートを飛行できる。

③MSAS（MTSAT Satellite Based Augmentation System：運輸多目的衛星用衛星航法補強システム）：GPSから測位情報を受信して航行しようとする航空機に対し、GPSの精度や信頼性を向上させるための補強情報を運輸多目的衛星（MTSAT）を中継して提供するためのシステム。

④GNSS（Global Navigation Satellite System：全地球的航法衛星システム）：人工衛星を用いて全地球的に利用することが可能な航法のための測位システム。GPS等の衛星測位システム、MSAS等の補強システム及びそれらの受信機から構成される。